

# 長与江里奈 Erina NAGAYO

舞台芸術集団「山猫団」主宰・演出家。「伊藤キム+輝く未来」「まことクラヴ」ダンサーとして国内・国外の劇場、ライブハウス、商店街、美術館、廃墟などありとあらゆる場所でパフォーマンスをしてきた経験を生かし、ジャンルに縛られない活動を展開。

ダンスを通して誰もがお互いの個性と自由を認められるコミュニティを作ること为目标に、日本各地で公演活動とワークショップを行う。愛鳥家。

所属カンパニー 山猫団  
ホームページ www.ynd.tokyo  
連絡先(担当) 長与江里奈  
在 住 地 東京都武蔵野市  
出 身 地 東京都武蔵野市



Photo:小林哲之

## 活動歴

〈2013年〉「山猫団」結成。  
〈2014年〉小学生向け芸術鑑賞会『のいちのぼうけん』石川/『ファンタスティック金沢編』石川/『ノスタルジック岡山編』岡山  
〈2015年〉市民参加型公演『岡の上のサーカス』神奈川  
〈2016年〉『岡の上のサーカス2』神奈川  
〈2018年〉『岡の上のサーカス3』神奈川/市民参加型公演『新開地カブキモノ大興行』兵庫※この公演をきっかけに市民ダンサー集団「新開地舞踊歌劇団」結成。  
〈2019年〉『第二回 新開地カブキモノ大興行』兵庫  
〈2020年〉市民参加型公演『12月20日』福岡  
〈2021年〉『第三回 新開地カブキモノ大興行』/『第四回 新開地カブキモノ大興行』兵庫  
〈2022年〉『それでも踊る』愛知/『第五回 新開地カブキモノ大興

行』兵庫  
〈2023年〉市民参加型公演『1月29日』神奈川/『踊りの為に』山形/子ども向け市民参加型公演『バズレル!』東京/『山猫団、あらわる』鹿児島/連続WS+市民参加型公演『ダンスを渡す〜長与江里奈の場合』兵庫

## ワークショップ歴

〈2015年〉「山猫音楽会スバイシ国のクリスマス」金沢県内児童館  
〈2016年〉「みんなの芸術文化体験事業」大分県内児童養護施設ほか  
〈2017年〉「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験事業」東京/親子向けWS「白熱ダンス教室!」静岡  
〈2018年〉「東京芸術祭2018野外劇三文オペラ関連WS」/「世田谷パブリックシアター演劇部中学生の部」東京  
〈2019年〉「子どものための文化体験事業」子ども芸術体験ワーク

ショップ」東京/スタッフ研修「アンデルセン公演子ども美術館」千葉  
〈2020年〉高校演劇部向けWS「Scale Laboratory」静岡/「オリンピック・パラリンピック教育推進事業」/「子供のための文化芸術体験機会の創出事業」東京  
〈2021年〉「2020国際子どもと舞台芸術・未来フェスティバル」東京  
〈2015年〜〉「パフォーマンス・キッズ・トーキョー」東京  
〈2016年〜〉「山猫式文化教室」(一般向け定期WS)神奈川/「文化芸術による子供の育成事業」東京・神奈川・大分・沖縄  
〈2017年〜〉「豊島区次世代文化の担い手育成事業」東京  
〈2019年〜〉「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」神奈川

保育園・小学校・中学校・高校・特別支援学級でのワークショップ歴多数。

## 可能なワークショップ等のスタイル

どんなワークショップでも基本的な目的は同じです。  
1.ダンスと自分自身に対する思い込みを優しく壊す  
2.体を通して他の人とコミュニケーションをとる  
3.そこで出てきた素直な動きや反応、感情を肯定する

### アウトリーチ

#### ①学校でのアウトリーチ

小学校・中学校・高校(特別支援学級を含む)で実施。自己紹介ダンスを見せて、これがダンス!?!と驚き楽しんでもらうところから始まります。動きや声を真似する簡単なワークから始まり、最終的には自

分のダンスを発見してもらいます。

#### ②ダンスや演劇などの部活やサークル

表現に関わる中高生・大学生対象。学校で行う内容に加えて、言葉を使わないコミュニケーションワークを重視。主語が「私」ではない表現を知ってもらうことで、新しい視点の獲得を目指します。

#### ③会社・役所など社会人向け

歩く・止まるなど、普段運動をしない人でも無理なくできる動きから始め、手のひらを合わせる、体

重をかけるなどのペアワークをします。直接触れ合いながらコミュニケーションを取ることで心理的な壁を取り除き、より円滑な人間関係を見出すことを目指します。

### 公募ワークショップ

公募ワークショップの内容や対象者は、各ホールの担当者さんと話し合い、そのホールの特性や課題に合わせて提案します。山猫団のメンバーを加えることで、音楽寄り、美術寄りの内容も可能。英語でのワークショップもできます。

## この事業で可能な公演スタイル

### レポートリー作品

#### ①「それでも踊る」

何もない舞台上に私服を着た出演者が登場してコンテナラリーダンスの説明するところから始まり、徐々に照明、音響、美術、音楽、衣装が足されていって舞台が完成します。コロナ禍の緊急事態直直下で急遽作られたKAVCとの協働作品で、劇場やダンスに馴染みのない観客に向けた上演に適した作品。

▶上演時間:約70分▶出演者数:3名(ダンサー2名、音楽家1名)▶同行スタッフ:美術家▶現地スタッフ:舞台監督:1名、照明:1名、音響:1名、演出部(ボランティア可):3~6名▶上演環境:(1)会場:間口5間×奥行5間以上。(2)床:可能ならリノリウム(3)必要機材:グランドピアノ、ピンマイク、垂木5~7本、脚立、ヘルメット(劇場で用意)ノリ物4種、積み木(持ち込み・配送)

#### ②「山猫団、あらわる」

架空のサーカス団「山猫団」がポンコツサーカスを行うお話。実際には存在しない「山猫団」について語っているうちに、妄想の中のキャラクターが現実にあられ、そのままサーカス団の演目が始まる。ダンス・歌・芝居・美術・音楽がふんだんに盛り込まれた作品を通して、想像力さえあれば何でもできるというメッセージを伝えます。

▶上演時間:約80分▶出演者数:3名(ダンサー2名、音楽家1名)▶同行スタッフ:照明家または美術家▶現地スタッフ:舞台監督:1名、照明:1~2名、音響:1名、演出部:1名▶上演環境:(1)会場:応相談。場所に合わせて上演可能(屋内に限る)(2)必要機材:ピアノ、ピンマイク3本、プロジェクター、名産品(劇場で用意)/スクリーン(持ち込み)

### 市民参加作品

#### ①『〇月〇日』

ある一日の過ごし方には無限の選択肢がある中で、はじめて出会った人たちがこの日共に舞台に立つことを選ぶという意味で、本番の日付をそのままタイトルにします。既存のシーンに加え、参加者を見て可能な限り多様なシーンを組み合わせる上演します。ホール職員の出演も可能です。

▶上演環境:(1)会場の広さ:プロセニアムの舞台が望ましい。間口6間×奥行4間以上(2)床:可能ならリノリウム(3)必要機材:ピアノ(グランドピアノが望ましいがアップライトでも可能)、箱馬(参加者の人数×2個)、その他は創作の過程で決定